

2013年3月期 通期決算説明資料

決算短信開示
2013年5月15日

1. 2013年3月期 通期決算概要

2. 2014年3月期 連結業績予想

3. 2014年3月期 経営方針/事業重点施策

連結決算ポイント

- 売上高は予想を下回るも3事業ともに増収達成
- 利益額は予想を上回り過去最高益更新
- SSS事業が増収増益を牽引

売上高

- SSS事業は、セキュリティ対策の需要増を受け、予想を上回り大幅な増収となる
- SIS事業は、開発案件やHW/SW販売不振に伴うSEサービスの減少で予想を下回るも、微増収となる
- ディーラー事業は、HW/SW販売不振から予想を下回るものの、買収した子会社の保守売上が寄与し微増収となる

営業利益

- 事業拡大に向けた労務費の増加などにより売上総利益が減少するも、引き続き間接業務の合理化などの経費削減、のれん償却額の減少により過去最高益となる

当期純利益

- 子会社の厚生年金基金脱退拠出金など特別損失の計上があるものの、経常利益の増加や法人税等の減少により過去最高益となる

主要経営指標

- 自己資本当期純利益率(ROE) : 9.6%→14.4%
- 1株当たり配当金: 10円 → 12円 (DOE : 4.8%→5.2%)

連結決算ハイライト

前期比

(百万円)

科目	'12年3月期	'13年3月期	前年同期比	
	通期実績	通期実績	増減額	増減率%
売上高	31,595	32,577	+981	+3.1
営業利益	1,895	1,998	+103	+5.4
営業利益率%	6.0	6.1	+0.1p	-
経常利益	1,672	1,850	+177	+10.6
当期純利益	660	912	+252	+38.2
EBITDA	3,071	3,086	+15	+0.5
自己資本当期純利益率(ROE)%	9.6	14.4	+4.7p	-
総資産経常利益率(ROA)%	8.5	9.6	+1.1p	-
1株当たり当期純利益(EPS)	22円20銭	35円04銭	+12円84銭	+57.8
1株当たりキャッシュ・フロー(CFPS)	72円55銭	78円85銭	+6円30銭	+8.7
1株当たり純資産(BPS)	214円74銭	243円10銭	+28円36銭	+13.2
1株当たり配当金	10円	12円(予)	+2円	+20.0

EBITDA : 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

1株当たりキャッシュ・フロー(CFPS) : (当期純利益 + 減価償却費 + のれん償却額) / 期中平均株式数

1株当たり情報: 普通株式に係る数値

連結決算ハイライト

予想比

(百万円)

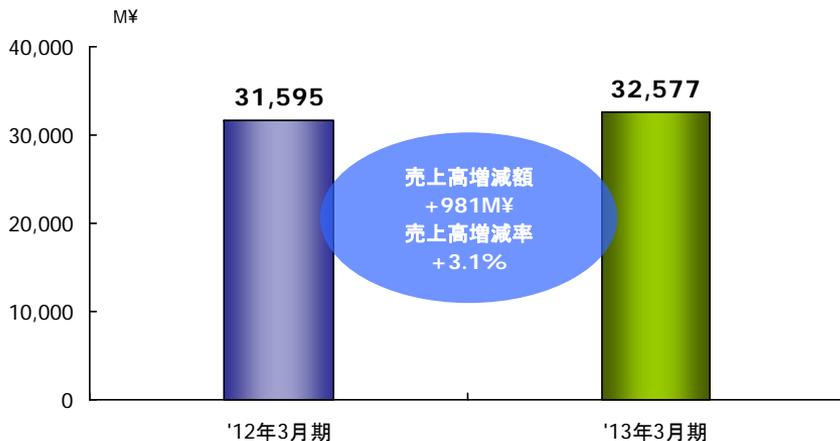
科目	'12年3月期	'12年3月期		予想比	
	通期実績	通期予想	通期実績	増減額	増減率%
売上高	31,595	35,000	32,577	△2,422	△6.9
営業利益	1,895	1,990	1,998	+8	+0.4
営業利益率%	6.0	5.7	6.1	+0.4p	-
経常利益	1,672	1,740	1,850	+110	+6.3
当期純利益	660	870	912	+42	+4.9
一株当たり当期純利益(EPS)	22円20銭	30円42銭	35円04銭	+4円62銭	+15.2

- 売上高は、SSS事業は予想を上回ったものの、SIS事業のシステム開発やディーラー事業のHW/SW販売において見込んでいた銀行関連案件などの受注が伸びず、予想比△6.9%となる。
- SSS事業の増収効果に加え、一社化による管理業務の効率化や営業一体化による販売費の抑制など経費低減に努めたことから、営業利益は予想比+0.4%となり、経常利益、当期純利益も予想を上回った。

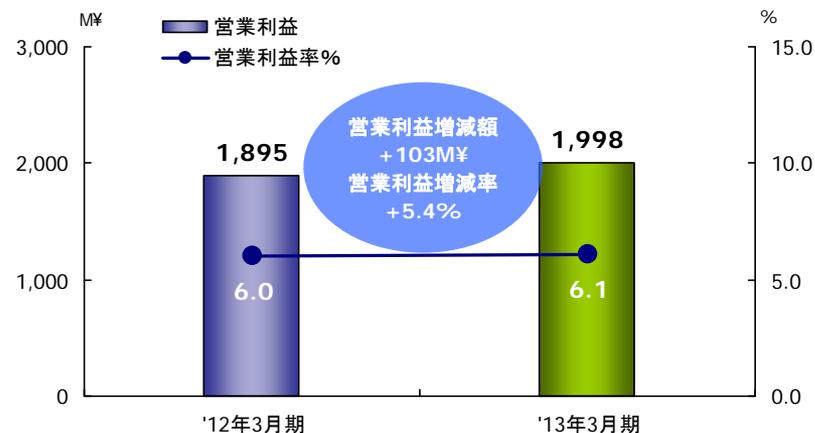
連結決算ハイライト

前期比

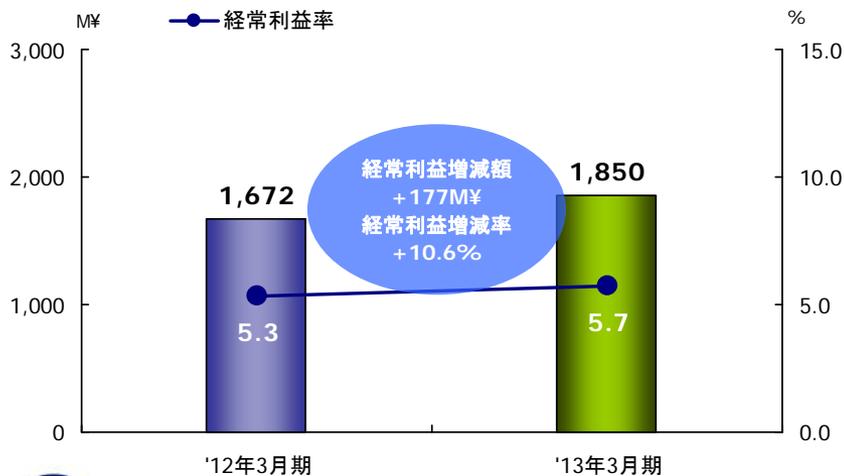
売上高



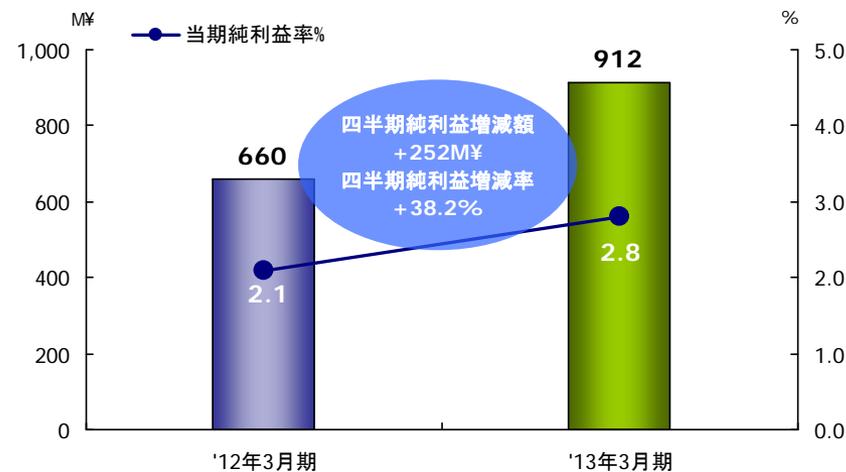
営業利益



経常利益



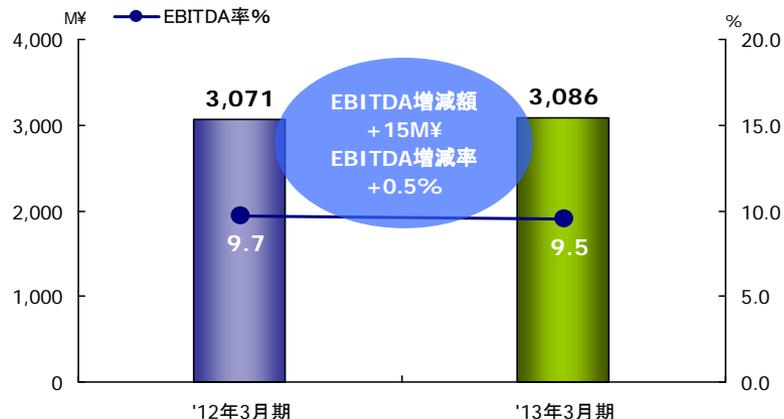
当期純利益



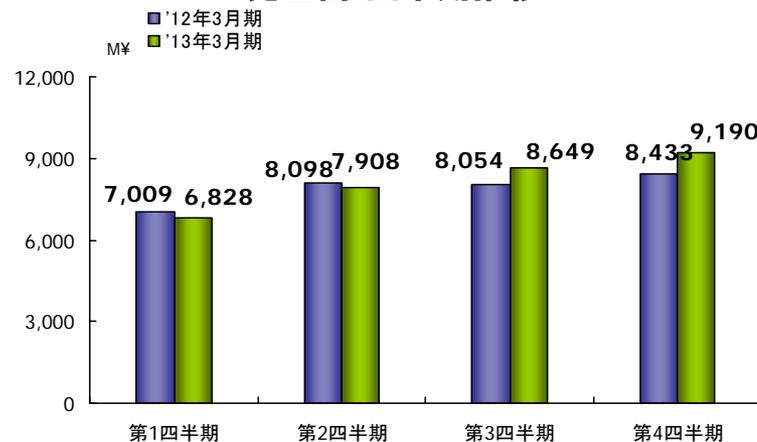
連結決算ハイライト

前期比

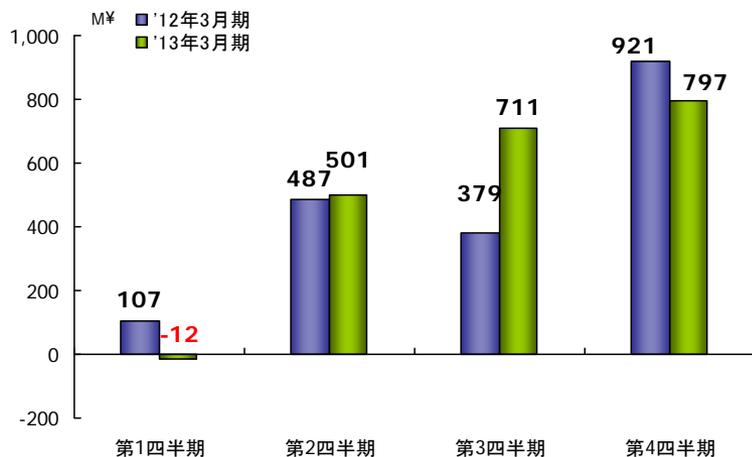
EBITDA



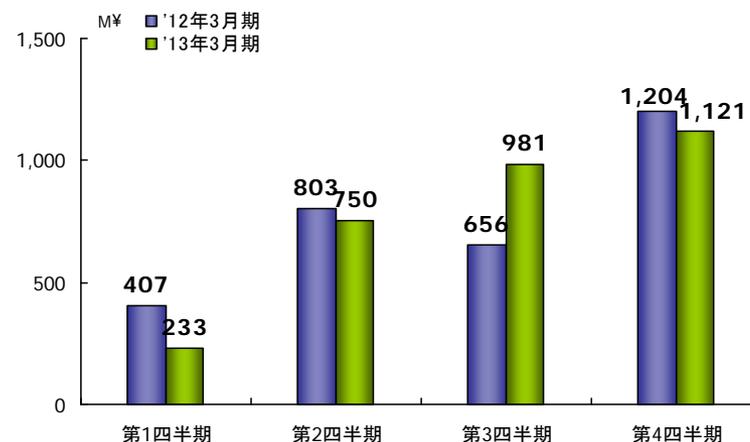
売上高 四半期推移



営業利益 四半期推移



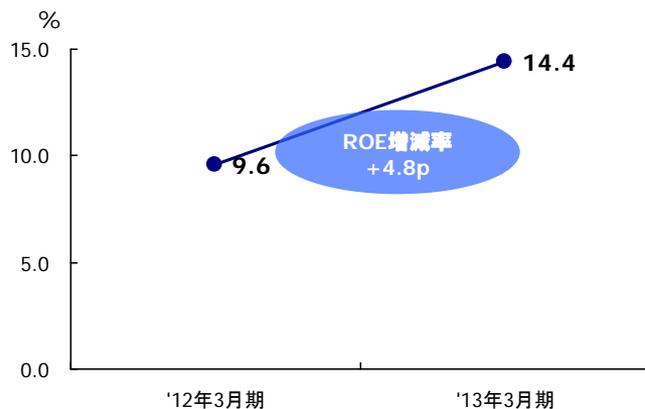
EBITDA 四半期推移



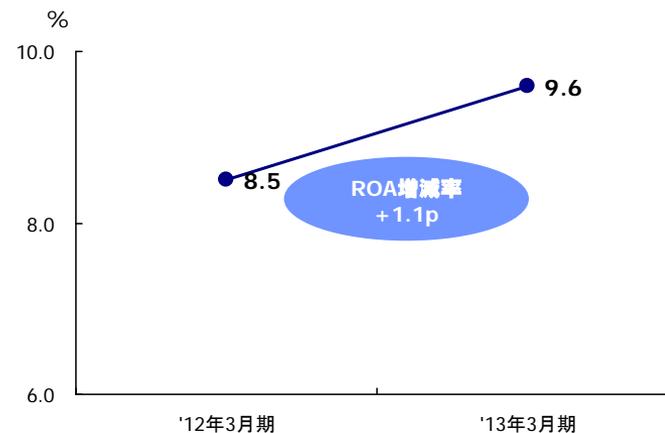
連結決算ハイライト

前期比

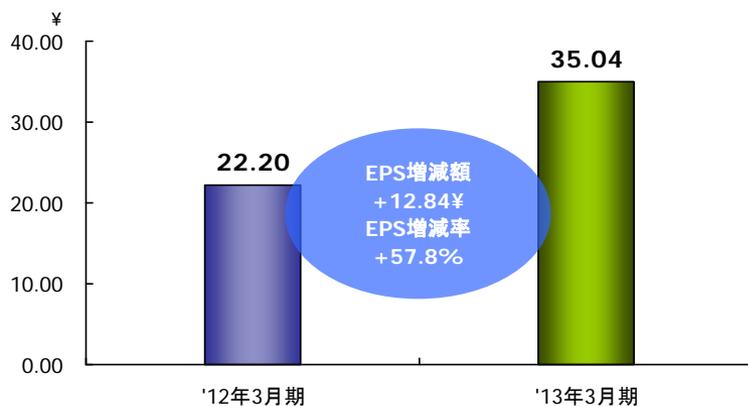
自己資本当期純利益率(ROE)



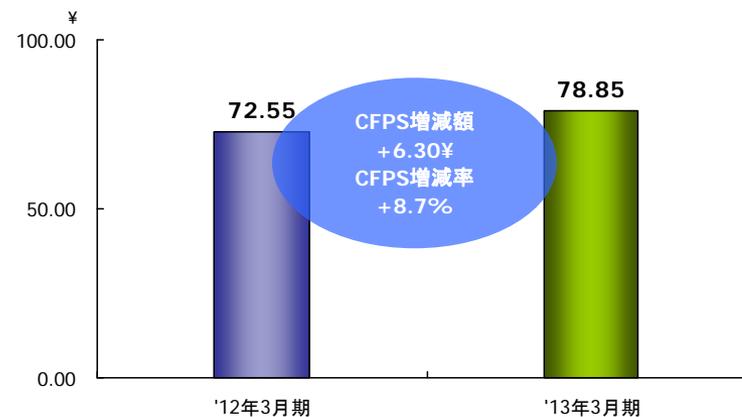
総資産経常利益率(ROA)



一株当たり当期純利益(EPS)



一株当たりキャッシュ・フロー(CFPS)

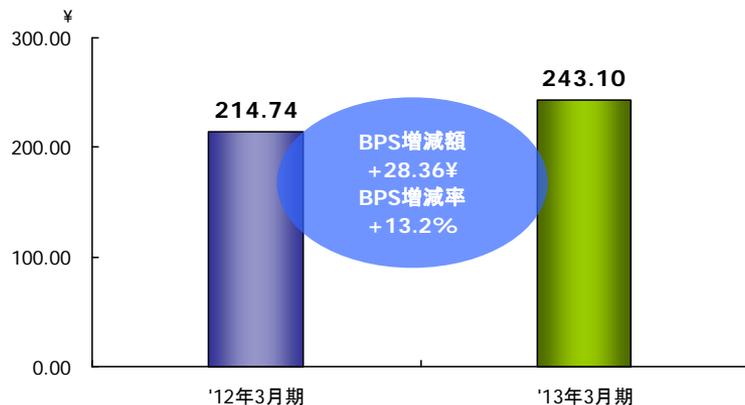


一株当たりキャッシュ・フロー(CFPS); (四半期純利益+減価償却費+のれん償却額)/期中平均株式数

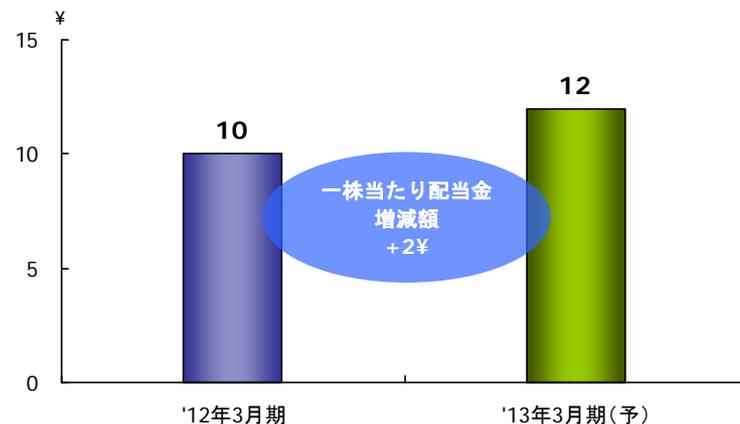
連結決算ハイライト

前期比

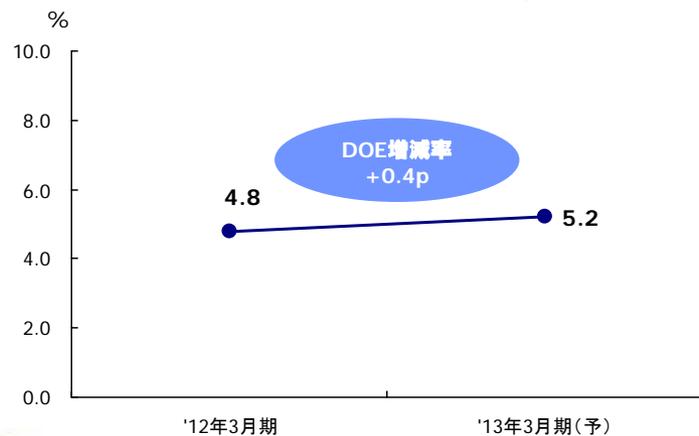
一株当たり純資産(BPS)



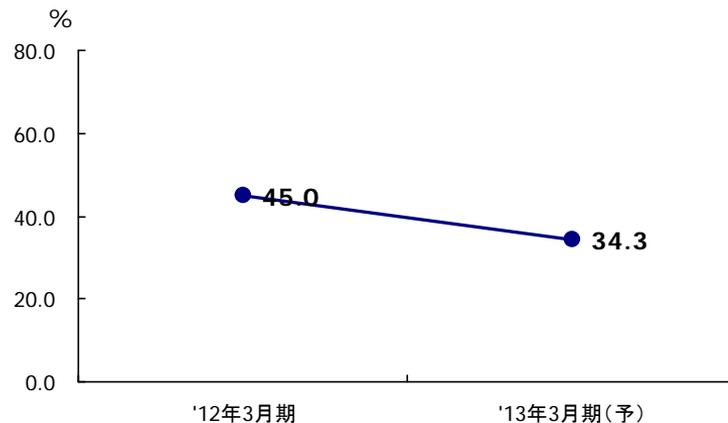
一株当たり配当金



純資産配当率(DOE)



配当性向



連結貸借対照表ポイント

- A種優先株式の残り全株式の取得消却するも自己資本比率32.0%維持
- のれん残高は2008年9月末 54億40百万円 ⇒ 24億47百万円に減少
- 総資産回転率は1.6回 ⇒ 1.7回に向上

資産

- 現金及び預金の増加、前払費用の増加、繰延税金資産(流動)の増加があった一方で、のれんの減少や繰延税金資産(固定)の減少などにより、192億50百万円(前連結会計年度末比1億48百万円減)となる

負債

- 短期借入金の減少や長期借入金の減少があった一方で、1年内返済予定の長期借入金の増加や前受収益の増加などにより、130億56百万円(同1億65百万円増)となる

純資産

- 当期純利益の計上などによる利益剰余金の増加があった一方で、優先株式の取得及び消却などによる資本剰余金の減少等により、61億94百万円(同3億14百万円減)となる

連結貸借対照表ハイライト

前期末比較

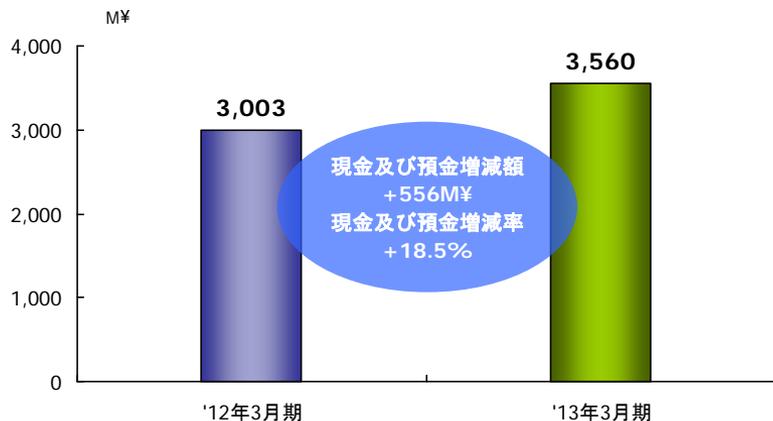
(百万円)

科目	'12年3月 期末	'13年3月 期末	増減額	科目	'12年3月 期末	'13年3月 期末	増減額
流動資産	10,825	12,269	+1,443	流動負債	8,246	9,115	+868
現金及び預金	3,003	3,560	+556	買掛金	2,053	2,054	+1
受取手形及び売掛金	4,854	5,013	+158	短期借入金	514	200	△314
たな卸資産	304	353	+48	1年内長期借入金	1,655	2,031	+376
前払費用	2,066	2,508	+442	1年内償還社債	100	100	-
繰延税金資産	275	746	+471	未払法人税等	301	140	△160
その他	324	89	△234	前受収益	2,092	2,525	+433
貸倒引当金	△2	△1	+0	その他	1,529	2,063	+533
固定資産	8,574	6,981	△1,592	固定負債	4,643	3,940	△703
有形固定資産	1,169	1,026	△142	社債	150	50	△100
無形固定資産	4,504	4,067	△437	長期借入金	4,154	3,723	△431
のれん	2,906	2,447	△458	その他	339	167	△172
その他	1,598	1,619	+21	負債合計	12,890	13,056	+165
投資その他の資産	2,900	1,888	△1,012	資本金	1,000	1,000	-
繰延税金資産	1,619	456	△1,163	資本剰余金	4,646	3,622	△1,023
その他	1,280	1,431	+150	利益剰余金	1,236	1,856	+619
資産合計	19,399	19,250	△148	自己株式	△331	△331	△0
				その他有価証券評価差額	△36	2	+39
				その他	△5	44	+49
				純資産合計	6,509	6,194	△314
				負債・純資産合計	19,399	19,250	△148

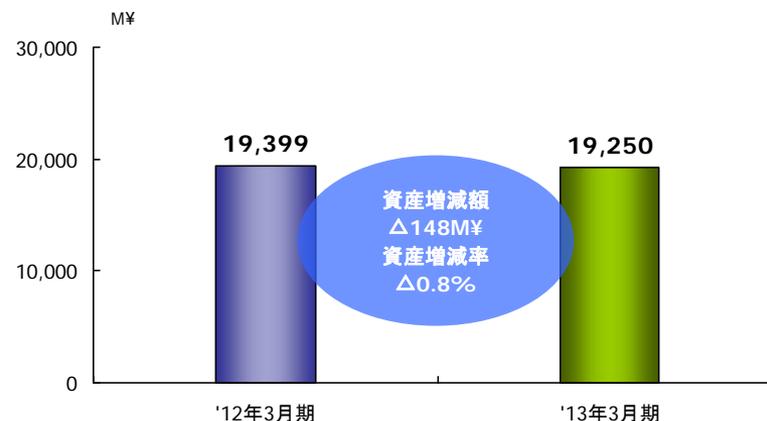
連結決算ハイライト

前期比

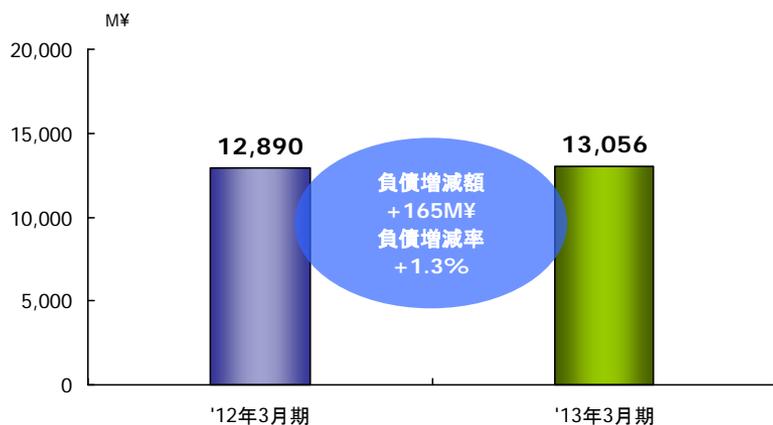
現金及び預金



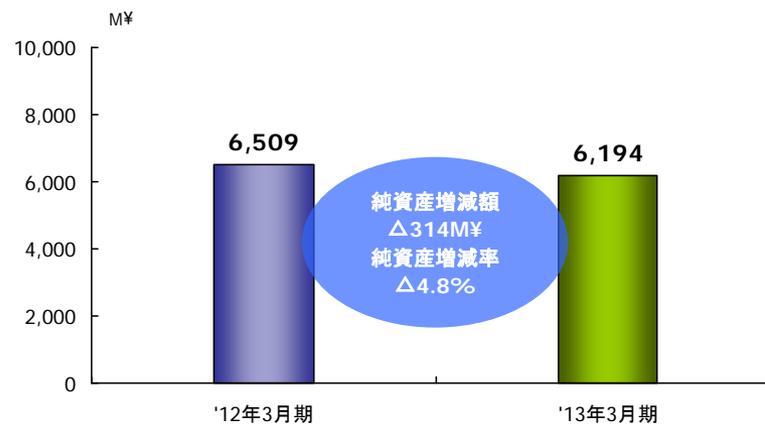
資産



負債



純資産



連結キャッシュ・フロー計算書ハイライト

前期比

(百万円)

科目	'12年3月期	'13年3月期
	通期実績	通期実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,355	3,082
投資活動によるキャッシュ・フロー	△841	△436
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,491	△2,123
フリーキャッシュ・フロー	1,514	2,645
現金および現金同等物の増減額(△は減少)	18	547
現金および現金同等物期首残高	2,984	3,003
現金および現金同等物期末残高	3,003	3,553
自己資本比率%	33.5	32.0
時価ベースの自己資本比率%	66.7	95.4
キャッシュ・フロー対有利子負債比率%	299.6	207.5
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	19.9	30.7

フリーキャッシュ・フロー: 営業キャッシュ・フロー + 投資キャッシュ・フロー

自己資本比率: 自己資本 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率: 有利子負債 / 営業キャッシュ・フロー

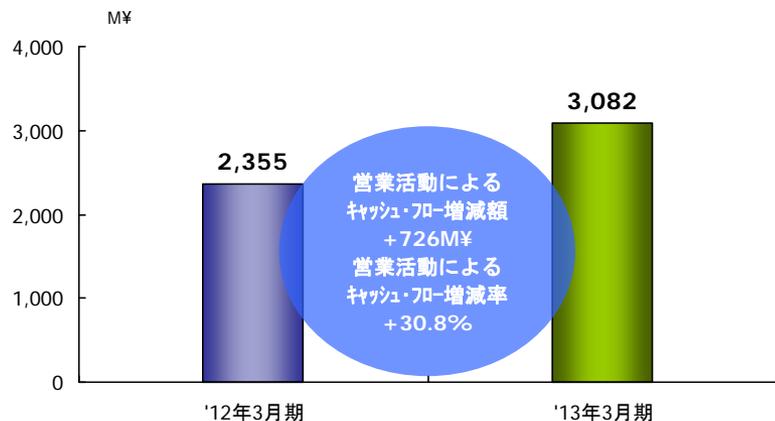
時価ベースの自己資本比率: 株式時価総額 / 総資産

インタレスト・カバレッジ・レシオ: 営業キャッシュ・フロー / 利払い

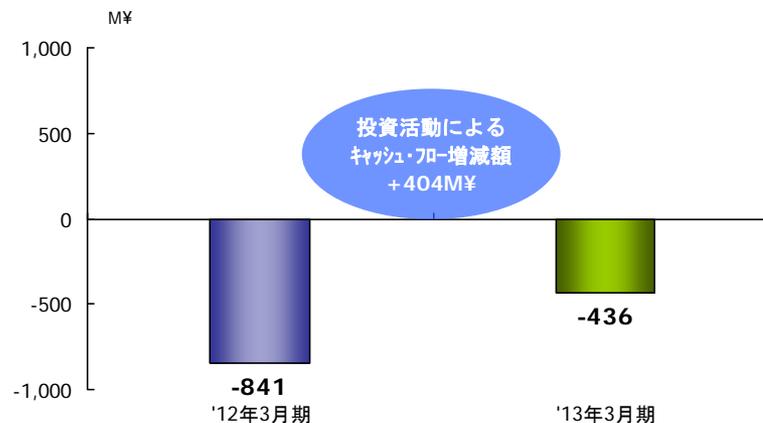
連結決算ハイライト

前期比

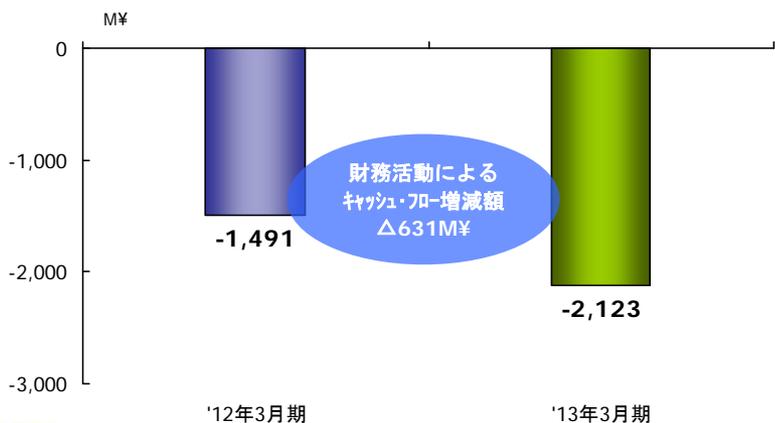
営業活動によるキャッシュ・フロー



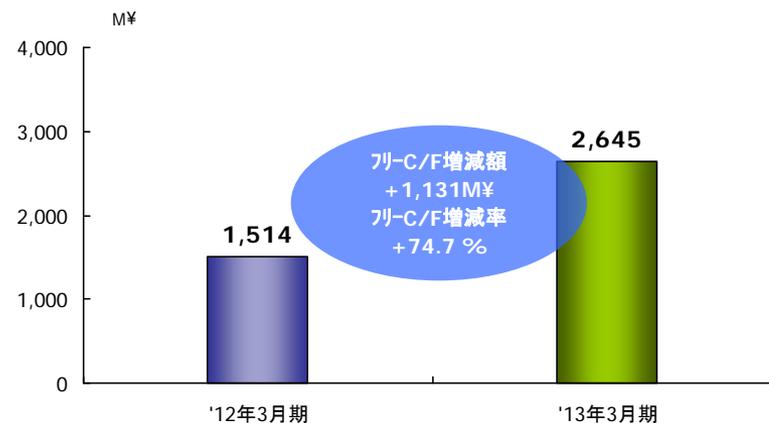
投資活動によるキャッシュ・フロー



財務活動によるキャッシュ・フロー



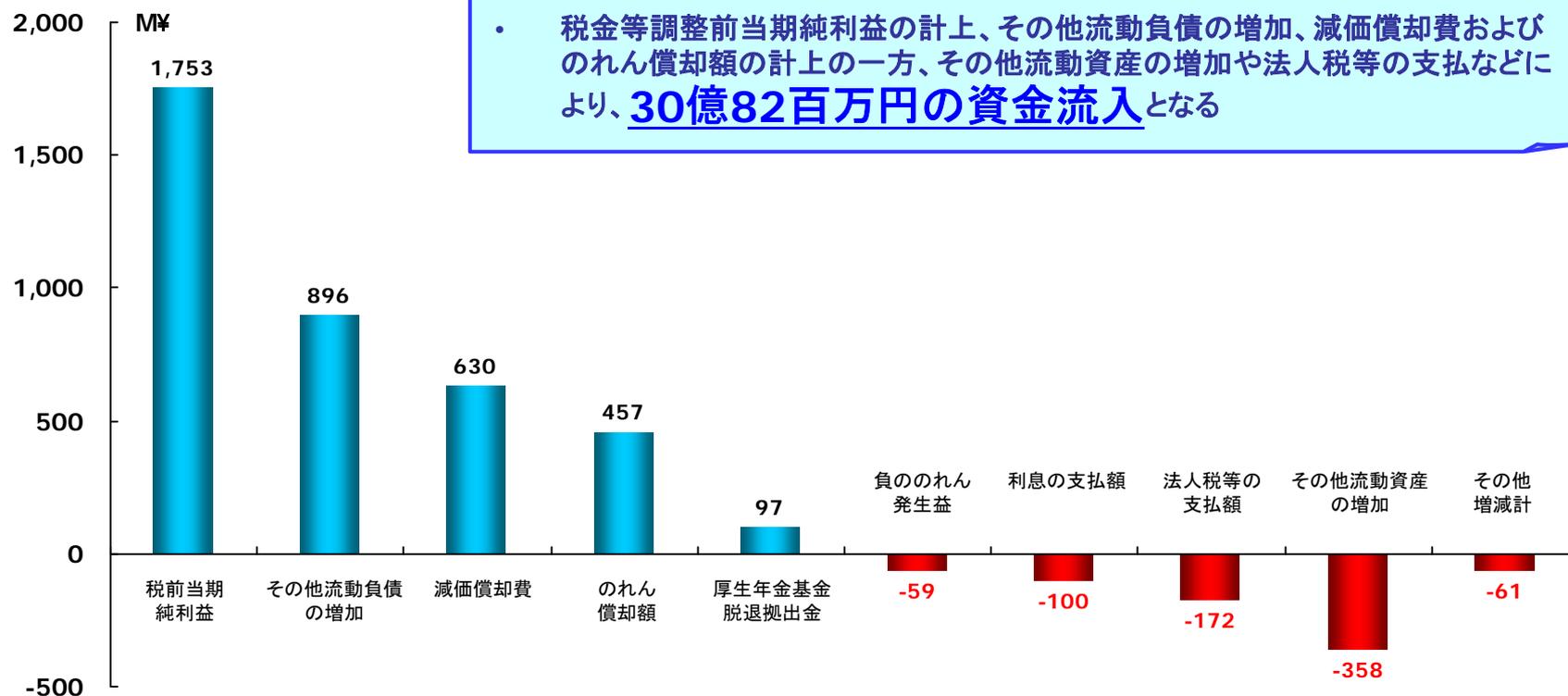
フリーキャッシュ・フロー



フリーキャッシュ・フロー; 営業活動によるキャッシュ・フロー+投資活動によるキャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フロー計算書ポイント

営業活動によるキャッシュ・フロー



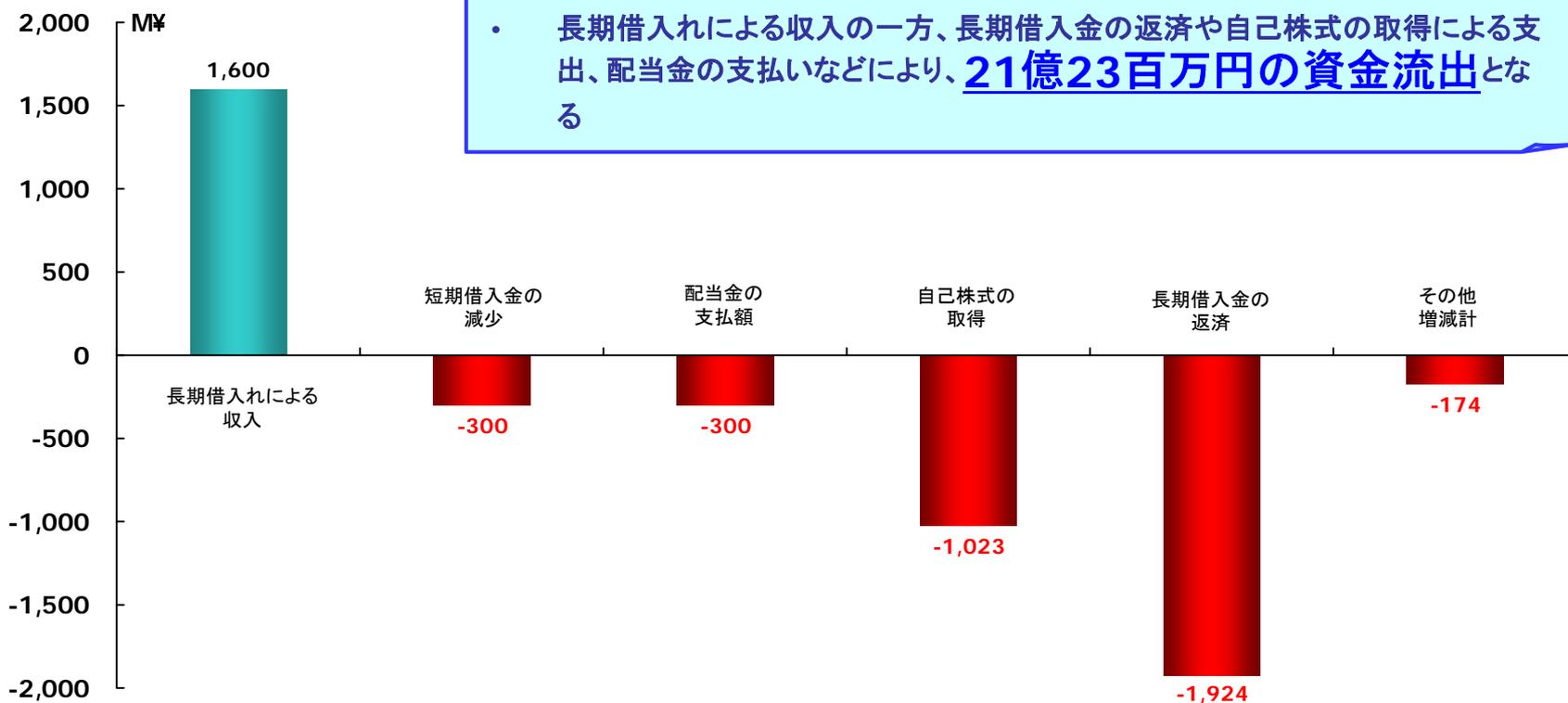
連結キャッシュ・フロー計算書ポイント

投資活動によるキャッシュ・フロー

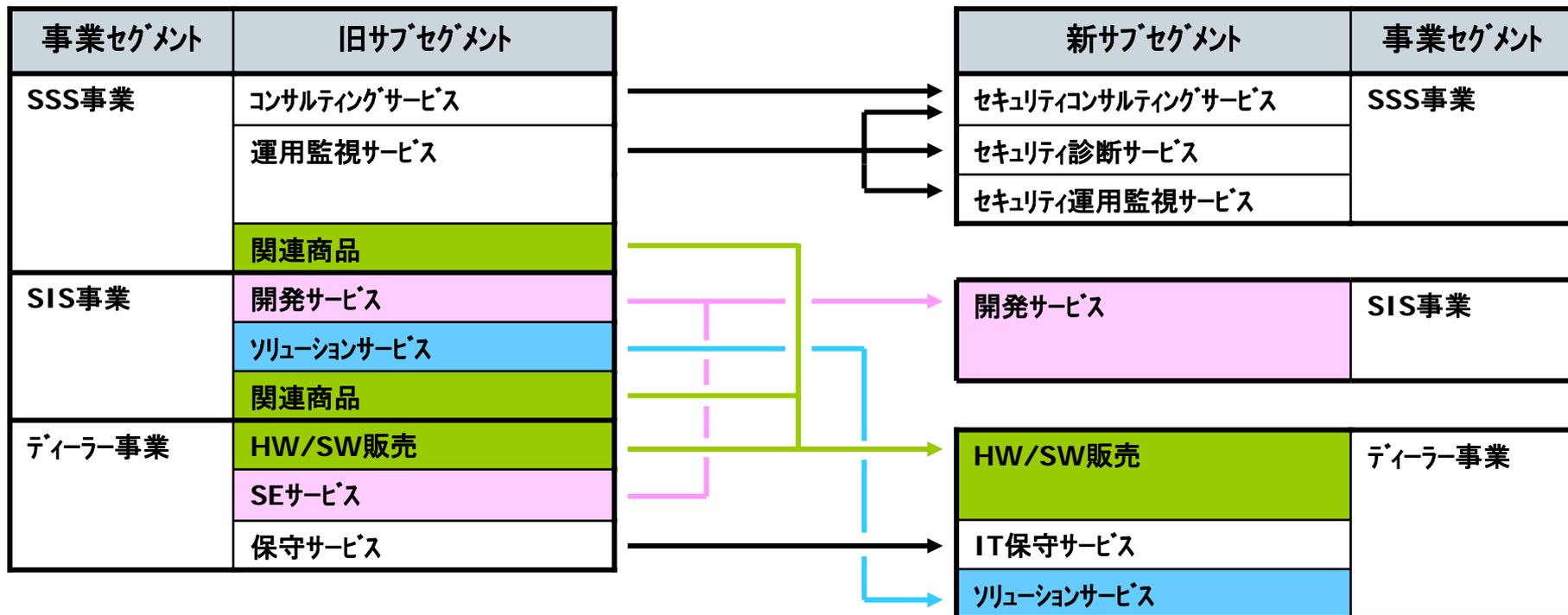


連結キャッシュ・フロー計算書ポイント

財務活動によるキャッシュ・フロー



組織変更に伴うセグメント構成の変更



【SSS事業】

- ・セキュリティ診断サービスを運用監視サービスから切り出し、独立したサブセグメントとした
- ・主に緊急対応案件に付随するサービス「フォレンジック調査関連」を、運用監視サービスからセキュリティコンサルティングサービスに組み替えた
- ・運用監視サービスの名称をセキュリティ運用監視サービスに変更した
- ・関連商品を、その内容からディーラー事業のHW/SW販売に組み替えた

【SIS事業】

- ・関連商品を、その内容からディーラー事業のHW/SW販売に組み替えた
- ・データセンターを中心としたサービスである「ソリューションサービス」を、ディーラー事業に組み替えた

【ディーラー事業】

- 上記のほか、
- ・「HW等の導入サービス」や「常駐系サービス」、「システム開発サービス」を展開するSEサービスを、SIS事業に組み替えた
 - ・保守サービスを、IT保守サービスに名称変更した

セグメント別業績ハイライト

前期比

(百万円)

売上高	'12年3月期		'13年3月期		前期比	
	通期実績	構成比%	通期実績	構成比%	増減額	増減率%
セキュリティソリューションサービス(SSS)事業	4,481	14.2	5,146	15.8	+664	+14.8
セキュリティコンサルティングサービス	1,725	5.5	2,103	6.5	+377	+21.9
セキュリティ診断サービス	877	2.8	946	2.9	+68	+7.8
セキュリティ運用監視サービス	1,879	5.9	2,097	6.4	+218	+11.6
システムインテグレーションサービス(SIS)事業	12,560	39.8	12,684	38.9	+123	+1.0
開発サービス	12,560	39.8	12,684	38.9	+123	+1.0
ディーラー事業	14,551	46.1	14,746	45.3	+195	+1.3
HW/SW販売	7,650	24.2	6,515	20.0	△1,134	△14.8
IT保守サービス	6,274	19.9	7,585	23.3	1,311	+20.9
ソリューションサービス	626	2.0	645	2.0	+18	+3.0
合計	31,595	100.0	32,577	100.0	+981	+3.1

セグメント別業績ハイライト

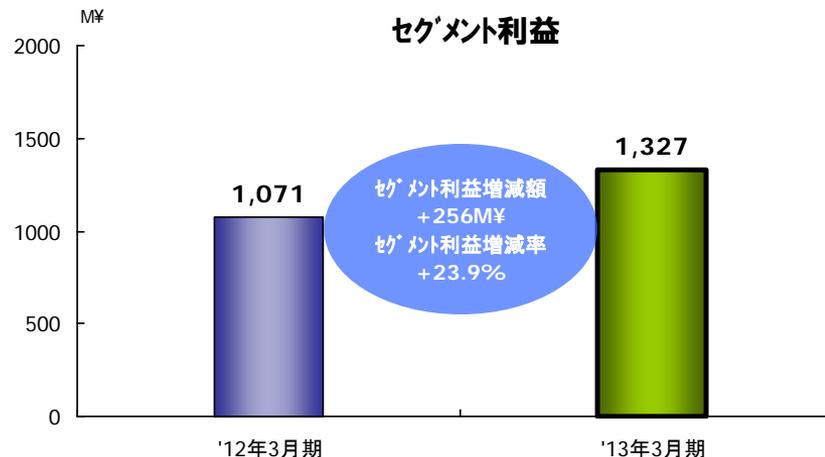
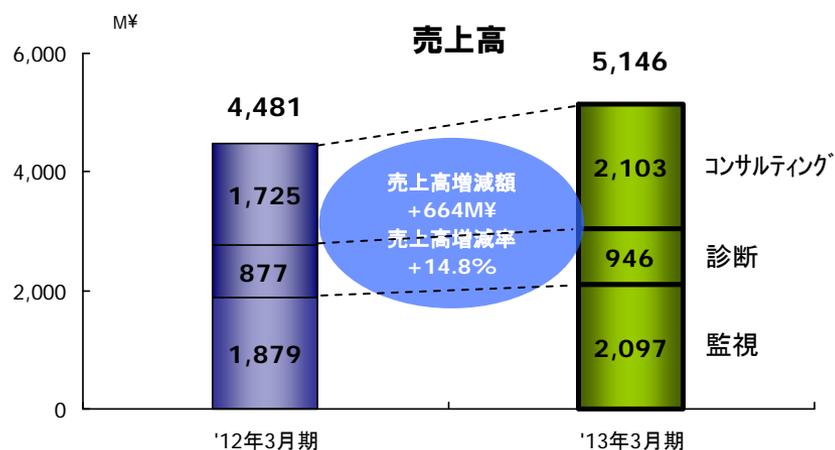
前期比

(百万円)

セグメント利益	'12年3月期	'13年3月期	前期比	
	通期実績	通期実績	増減額	増減率%
セキュリティソリューションサービス(SSS)事業	1,071	1,327	+256	+23.9
システムインテグレーションサービス(SIS)事業	2,126	2,085	△41	△1.9
ディーラー事業	435	407	△28	△6.5
消去又は全社(調整額、その他)	△1,737	△1,821	△84	-
合計	1,895	1,998	+103	+5.4

セグメント別業績ポイント(前期比)

SSS事業



[コンサルティングサービス]

- ✓ 緊急対応サービスが増加し、診断サービスなど他のセキュリティサービスへの展開も牽引
- ✓ 金融機関向けセキュリティ対策支援などの新規案件や常駐型案件も好調に推移

[診断サービス]

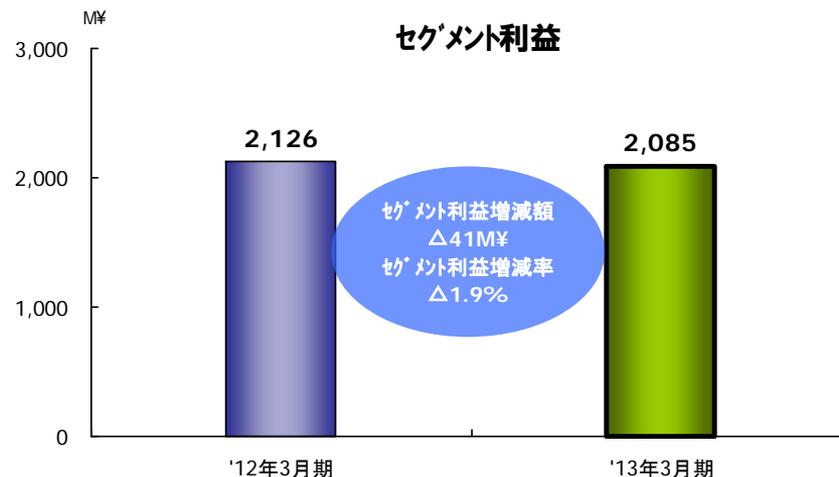
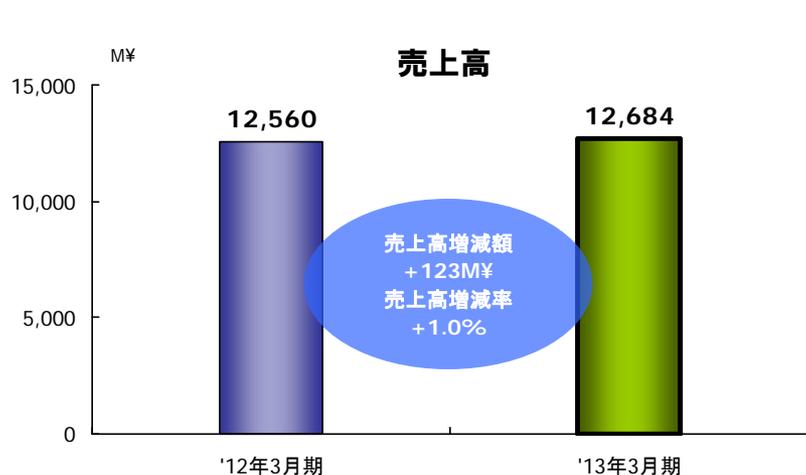
- ✓ 既存顧客からのレポート案件や深堀営業による受注拡大
- ✓ 緊急対応サービスの提供を契機とする新規案件の獲得

[運用監視サービス]

- ✓ 出口対策への意識の高まりによる新規案件の獲得
- ✓ 企業や官公庁内にセキュリティ監視センター「PSOC」を構築し運用を支援するサービスに注力

セグメント別業績ポイント(前期比)

SIS事業

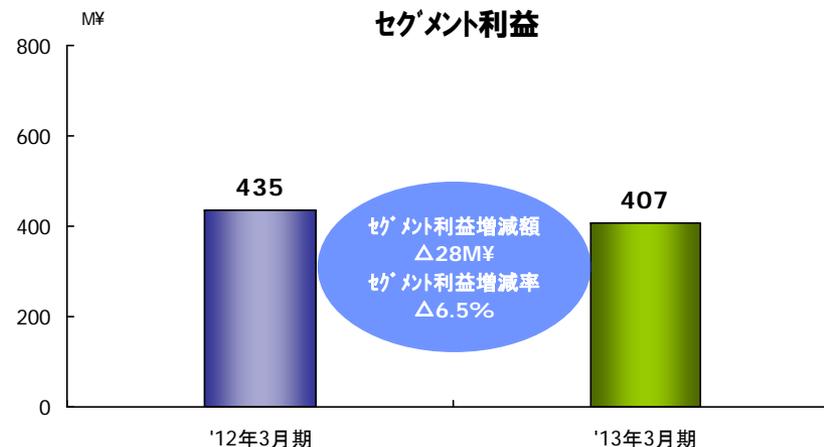
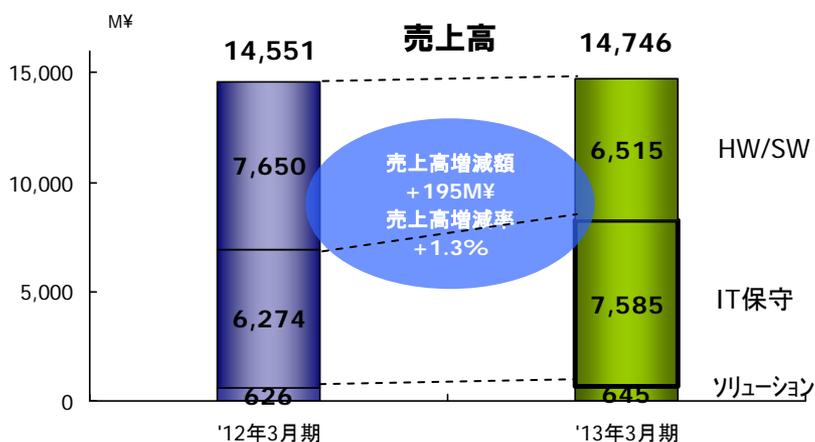


[開発サービス]

- ✓ カード業、保険業向け案件や銀行業向けなどの基盤系案件は堅調
- ✓ 比較的収益性の高いサービス業や製造業向けの業務系アプリケーション案件が終息に向かう
- ✓ HW/SW販売の不振から付随するSEサービスは伸び悩む

セグメント別業績ポイント(前期比)

ディーラー事業



[HW/SW販売]

- ✓ 下期に金融機関向けの一部に受注が回復し、メガバンクのシステム化案件や証券業向け案件が増加
- ✓ 案件の減少や小型化が影響

[IT保守サービス]

- ✓ 価格の低減要請などにより既存案件は減少
- ✓ 買収した子会社のネットワーク構築関連の保守案件が寄与

[ソリューションサービス]

- ✓ 自治体向けシステム更新案件や震災復興関連案件の受注

1. 2013年3月期 通期決算概要

2. 2014年3月期 連結業績予想

3. 2014年3月期 経営方針/事業重点施策

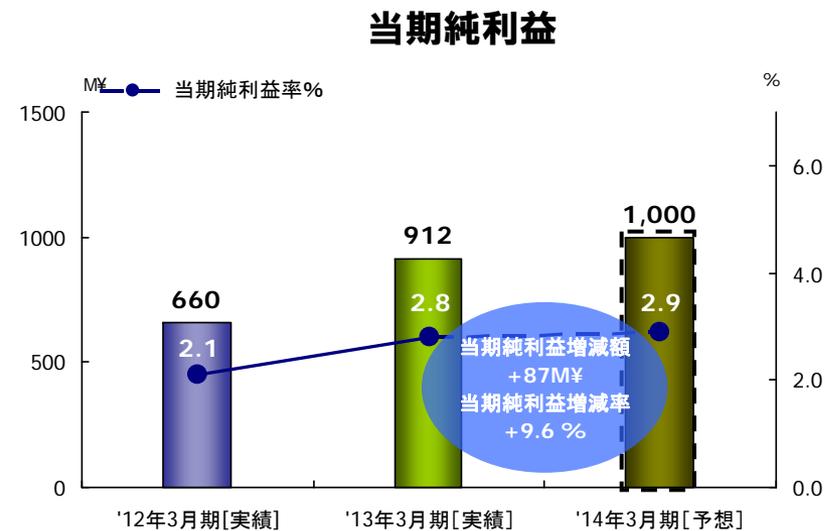
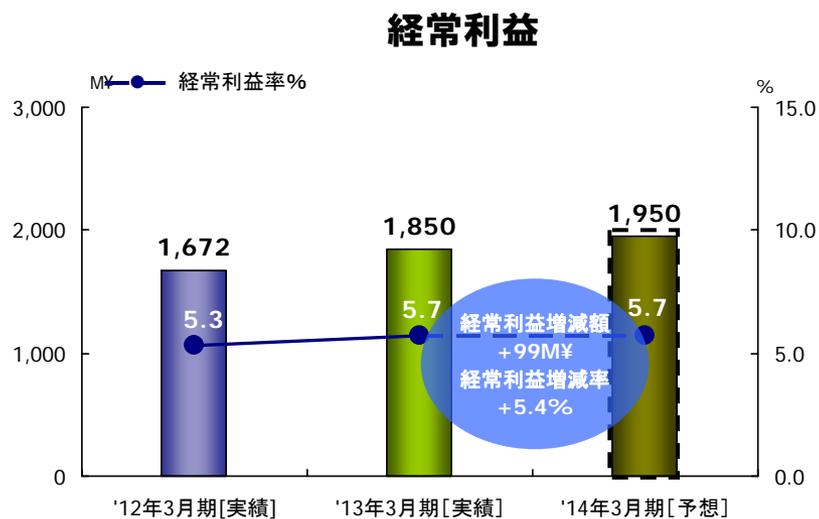
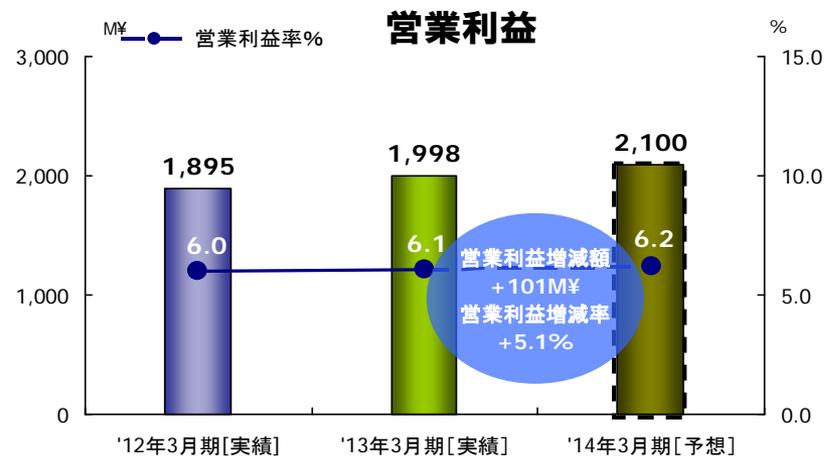
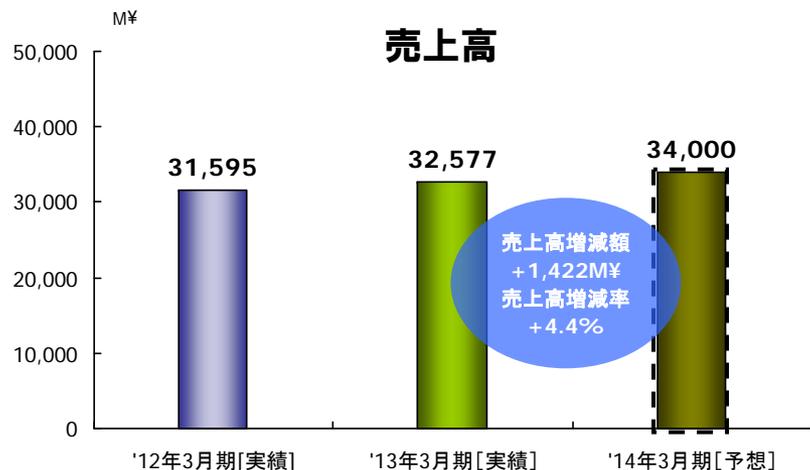
連結業績予想

通 期

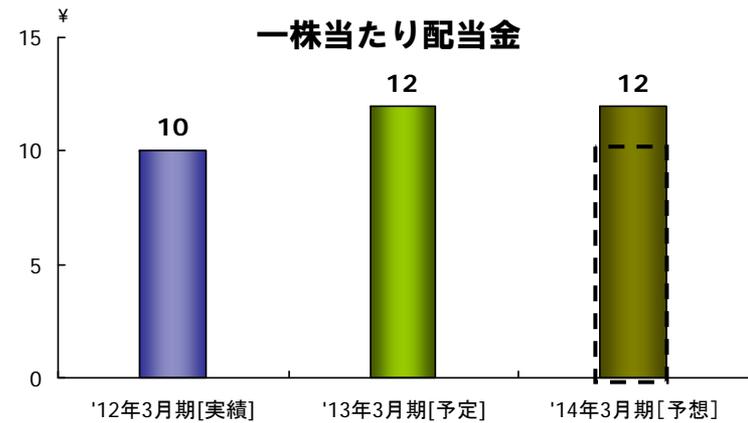
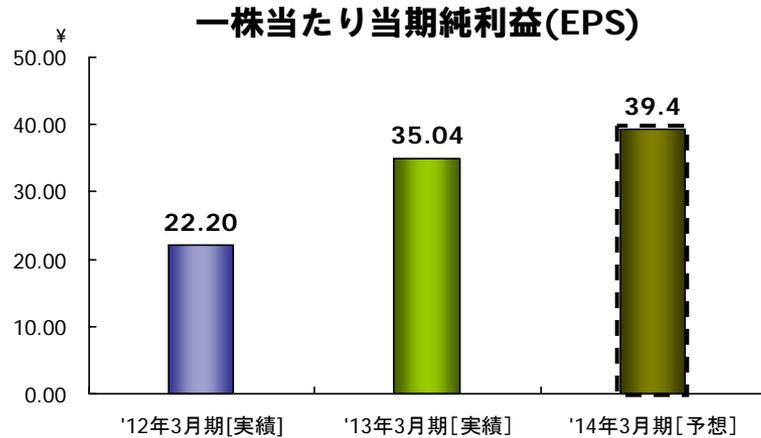
(百万円)

科目	'13年3月期	'14年3月期	前期比	
	通期実績	通期予想	増減額	増減率%
売上高	32,577	34,000	+1,422	+4.4
営業利益	1,998	2,100	+101	+5.1
営業利益率%	6.1	6.2	+0.1p	-
経常利益	1,850	1,950	+99	+5.4
当期純利益	912	1,000	+87	+9.6
1株当たり当期純利益(EPS)	35円04銭	39円40銭	+4円36銭	+12.4
1株当たり配当金	12円	12円	-	-

連結業績予想



連結業績予想



セグメント別業績予想

通 期

(百万円)

売上高	'13年3月期	'14年3月期	前期比	
	通期実績	通期予想	増減額	増減率%
セキュリティソリューションサービス(SSS)事業	5,146	5,700	+553	+10.8
システムインテグレーションサービス(SIS)事業	12,684	12,700	+15	+0.1
ディーラー事業	14,746	15,600	+853	+5.8
合計	32,577	34,000	+1,422	+4.4

1. 2013年3月期 通期決算概要

2. 2014年3月期 連結業績予想

3. 2014年3月期 経営方針/事業重点施策

基本方針は「3本の矢」



**独自性があり
かつ安心安全なサービスを創造し
市場に提供し続ける**



第一の施策；独自性

「ビジネスデベロップメント本部」を新設

～ 独自性を築く新しいビジネスモデルを創出 ～

「進化し続けること」を「独自性を発揮する」と捉え、

3事業におけるビジネス企画機能を統合した新組織を設立。

情報・知識・経験を共有し集約することで、ラックの新しいビジネスモデルを創出し、

次世代の柱に育て上げていく。

システム開発事業：
カスタマーセンター
対応評価システム

システム開発事業：
ビッグデータ
活用支援システム

システム開発事業：
Notes延命
ソリューション



第二の施策；安心安全

情報セキュリティサービスを拡充

～ 安心できる品質を保ち続ける ～

現在の社会において「情報セキュリティ」は「社会にとってなくてはならない」存在である。

ラックは安心できる社会インフラを支えていくため、
情報セキュリティサービスのさらなる拡充を図っていく。

セキュリティ事業：
新規デバイスへの
積極的な対応

セキュリティ事業：
内部セキュリティ
監視システム

セキュリティ事業：
セキュリティ・パフォーマ
ンス診断サービス



第三の施策；市場展開

営業の一本化

～ 3事業の顧客基盤の共有化 ～

「独自性」と「安心安全」を具体化したサービスやソリューションを、

営業の一本化により共有化された顧客基盤に展開。

新規市場の開拓や大企業へのアカウント営業などにより、

さらに顧客市場を広げる。

ビッグデータ
×
内部監視ソリューション

Notes延命
×
DMEソリューション

セキュリティ運用
×
システム運用

事業重点施策

SSS事業

市場環境

標的型サイバー攻撃や官公庁・企業のホームページ改ざん、個人情報漏えいなどセキュリティ関連の事件・事故は後を絶たないなか、引き続き市場は拡大すると思われる。一方で競合他社の新規参入や再参入の動きも活発化し、先進性や独自性が求められる新たなステージになると予想。

重点施策

■ 監視サービスの強化

- ◆ 監視対象機器の拡充（ラインナップの拡大）
- ◆ 監視サービス販売の強化

■ 大型案件の獲得

- ◆ 上流コンサルティングから参画
- ◆ 案件に特化したソリューション（プレミアムソリューション）の提供

■ 日本政府への協力推進

■ 海外ベンダーとの協業

事業重点施策

SIS事業

市場環境

金融系の大型案件が見込まれるものの、企業のIT投資は依然として慎重な姿勢が残り、コスト削減のみならず企業成長と経営効率の両立が求められる。こうしたなか、ビッグデータソリューションやモバイル端末に関わる構築案件など、引き続き多様な技術への迅速な対応が必要と予想。

重点施策

■ 市場開拓

- ◆ 得意とする金融向け案件の深堀
- ◆ 非金融、特にIT関連企業の開拓
- ◆ 他事業との顧客基盤の一元化（SSS事業の緊急対応サービスのアフターフォロー案件など）

■ 大型案件の獲得

- ◆ パートナーシップ強化による受注
- ◆ ソリューション技術力による受注
- ◆ ソリューションベンダーとの協業

■ ミドルマネジメントの育成

事業重点施策

ディーラー事業

市場環境

主要ベンダーの業績も厳しい状況にある中、物販は昨年並みと考えられる。サービスに関しては主要ベンダーやSierとの協業が進み、市場は回復傾向にあると予測。

重点施策

- 営業、SEの統合によるワンストップ化の推進
- ベンダーおよびSierとの協業推進
 - ◆ Sierとの新たな協業スキームの刈り取り
 - ◆ 主要ベンダーへの提案型協業のさらなる推進
- 営業基盤の再構築
 - ◆ 営業主導によるプライム案件の獲得
 - ◆ 大手ベンダーとの協業拡大による大型案件への参画
 - ◆ 金融、流通分野に加え、製造、通信メディア分野への市場拡大
 - ◆ 中堅Sierとのリレーション強化による市場のさらなる拡大

本資料は、現時点における情報に基づいた将来に関わる予測が含まれております。それらは今後の経済状況や情報サービス業界の動向などにより変動する可能性があります。従って、当社が本資料によって投資等判断の確実性を保証または約束するものではありません。予めご承知おきください。

IRお問い合わせ窓口：経営企画室 | IR広報部

Tel: 03-6757-0107

Fax: 03-6757-0101

E-Mail: ir@lac.co.jp